

第3回平塚市社会教育委員会議要旨

日 時	令和3年6月1日（火）15時10分～16時50分
会 場	平塚市役所619会議室
出席委員	牧野賢治、吉成伸司、江水是仁、栗原邦夫、丸島隆雄、原田三行、 渡邊彩子、北澤浩一、府川文子、大和田マイ子
事務局	平井社会教育部長、鈴木社会教育課長、西山中央公民館長 社会教育課 坂田課長代理、木村主査、市川主事
傍聴者	なし
会議要旨	

1. 自己紹介

委員、事務局の自己紹介を行った。

2. 令和3年度社会教育関係事業について

社会教育課及び中央公民館の令和3年度予算と所管事業について説明した。

3. 議事

(1) 令和3年度社会教育関係団体等への補助金の交付について

社会教育課及びスポーツ課が所管する補助金の交付状況について報告した。

○委員

スポーツ課の補助金「平塚レクリエーション連盟」について、団体数減少の理由は何か。

○事務局

平塚市レクリエーション連盟は4つの団体で構成されており、平塚市レクリエーション協会が脱退した。理由は、加盟者数の減少と高齢化で平塚レクリエーション連盟の活動に協力することが難しくなったこと。

○委員

これらの補助金の監査結果などはホームページ等で公開されているか。

○事務局

適正に執行されているか庁内の監査を実施している。

○委員

第三者の目で確認できるようになっていることでいいか。

○事務局

確認できるようになっている。

(2) 神奈川県社会教育委員連絡協議会の事業について
総会、研修会、地区研究会の開催日程を説明した。

(3) テーマ協議

○議長

委員のみなさんの地域や団体で、コロナ禍で工夫している実践例などあれば、ご紹介いただきたい。

○委員

(実践例とは違うが) コロナ禍において地域活動をしていて感じることは、今までは入学式や卒業式などの学校行事に自治会等の地域の人達が招待されて、子ども達との繋がりが持っていたが、コロナ禍になってしまい、地域と子ども達との繋がりが希薄になったように感じている。今までは子ども達とすれ違うと挨拶が返ってきたが、今はそのようなことがない状況。これは地域での大きな課題だと感じている。崇善地区では、10月の地区レクは何とか開催できるように模索している。

○議長

コロナ禍での学校の現状について伺いたい。

○委員

小学校6年生を対象とした地元で根差す歴史的な場所を、地元の歴史に詳しい人と一緒に巡る「相模歴史ウォーク」を来週実施予定。コロナ前は、給食も一緒に食べていたが、お昼に一度解散し、また午後には続きの授業を行う予定。

市外の校外学習は控える状況の中、学区内であれば、感染症対策をした上で実施しようということになった。

これは、昨年度のことを考えると大きな進歩かなと思う。まん延防止等重点地域になっている中での実施には、念入りの準備と適切な判断が必要である。

○議長

小学校の例が出たが、中学校はどうか。

○委員

昨年度は4月、5月が休校だったので、今年度は手探りながら前に進んでいこうということで昨年度よりはいいスタートが切れたという印象。

授業については、感染症対策を取りながら実施できているが、行事や部活動を通常に戻していくところが課題である。

運動会は縮小した形で秋に開催する学校が多く、既に6月に実施した学校もある。部活動は3年生にとって最後の活動の場なので、保護者の方にも来ていただきたいが、基本的には応援なしで実施予定。子どもの活動を一番に考えると、やむを得ない状況。中体連の大会は1日の予定であるが、お昼なしの日程等検討しているところ。昨年は修学旅行や卒業遠足は実施できなかったもので、何とか学校活動を通常に

戻していくことを考えているところ。

ワクチンも早く子ども達にも接種してあげたいと思っている。

○委員

実は地域の方たちと触れ合ってみたいと思っている子もいて、5月23日に実施した「まちぐるみ大清掃」は大盛況だったと聞いている。それに伴い、スポーツゴミ拾いを計画しているとも聞いた。

できないというのは簡単であるが、地域の人たちと子ども達が触れ合うことが重要で、いかにイベント等を実施するかを考えていくことが大切だと思う。密にならないよう小さい単位でできることをやっていけたらいいのでは。

学校の先生がお忙しいのは承知しているが、地域の人がおかえりと話しかけたら、ただいまと言っていいんだよと声を掛けてもらえたらいいなと思う。このような小さな繋がりをたくさん作り、子ども達が自分たち家族だけで生活しているのではなく、地域の色々な人達の中で生活しているということが解ってもらえるといいと思う。

○委員

大野中学校区の教育力ネットで「スポーツGOMI拾い」を実施したことがある。エリアを定めて一定の時間内で、拾ったごみの量と種類などをポイント化し、その得点を競うもの。しかし、中学生の集まりが悪くなったので、今はやっていない。

○委員

今回のまちぐるみ大清掃には、通常の2～3倍の本当に多くの子ども達が参加した。密にならないか心配だったが、子どもも大人も声を出さずに実施した。後で子どもに聞いたら「楽しかった」と言っていた。子ども達も何かの機会があれば外に出たいという意思表示と感じている。

崇善地区の地区レクでは、江陽中学校の子ども達がお手伝いのボランティアとして参加してくれる。学校としてもボランティア表彰をしてくれている。

また、小学生のマーチングバンドは一生懸命に練習していたが、昨年度は披露するイベントが中止となってしまった。10月の地区レクでは出演してもらおう予定。小学生、中学生が何も成果発表をできないで卒業してしまうのは耐え難いので、何とか知恵を絞って実施したいと考えている。

○議長

地域の実践例が出たが、他の地域はどうか。

○委員

南原公民館はシニア学級を開催する予定。大人数にならないよう、少人数の講座を複数回に分けて実施したい。

今までは60人位集めていたが、今回からは20人程度に絞って、間隔を取りながら開催する。

南原地区は土日は子ども達が集まりにくいので、夏休みに子ども向け講座を実施予定。

○議長

大学関係はどうか。

○委員

大学は、昨年度は構内は完全に閉鎖でしたが、今年度は少し開けている。

しかし、クラスターの発生によりまた閉ざされてしまっている。金目エコミュージアムについては、県外から通う学生が多いため、高齢者に感染させてはいけないことや、金目公民館がワクチン接種会場になっていて活動できていない。

地域の中で完結する活動であれば、実施できるかもしれないが、県外の人を入れて実施するようなイベントは難しいのではと感じる。

危惧しているのは、秋になるとワクチン接種が進み高齢者の感染リスクが下がるだろうが、無症状のまま出歩いてしまって、若い世代にも感染が広がってしまうリスクが高くなること。ワクチンを接種すれば安全だという考えはちょっと危険なのではと感じる。

感染させない条件が少しずつ判ってきているので、チェックリスト等でパスできれば実施していくなど科学的なエビデンスをもとに行っていく必要がある。感染しないため、感染リスクを減らす方法や、なぜそれをしなければいけないのか学ぶ機会も社会教育であると思う。

東海大学ではコロナ検定を実施し、合格したら入構できるといったことを実施している。遊びながら楽しみながらコロナ対策を浸透させるというのもひとつの方法かなと思う。

○委員

子ども達にその検定をやらせてもらってもいいかもしれない。

○議長

花水地区はどうか。

○委員

みなさんのお話を聞いていて、触れ合いの機会がなくなっている印象を受けた。

地域の元校長先生が卒業式も入学式もすべて地域行事だと言っていた。学校行事も地域全体で行っているという認識で、やっていくことが必要。

ワクチン接種が進み、集団免疫ができれば、地域活動を復活していかないといけない。今からその下地を作っていく、先陣を切ってやっていくことがこの場の役割だと思っている。

例えば、SCN やナパサ等で情報番組を作って、インターネットの使い方やコロナ対策をお知らせしてはどうか。

中学生が高齢者のワクチン接種予約ボランティアを実施しているとニュースで見た。

子ども達が高齢者の方と触れ合う機会にもなるので、平塚でも検討してもいいのでは。

○議長

他に何か取り組みはあるか。

○委員

スマホを持っているが使いこなせない高齢者向けの講座等を、いくつかの公民館で開催しているという話は聞いている。

○委員

どこの地域も中学生以上になると地域との関わりが薄くなってしまいうという課題がある。災害等が起きたときに中学生の存在は大きいと思う。そこで、中学生に「あなたたちも地域の一員なんだ」という認識を持ってもらうことが必要だと思う。

○委員

ちいき情報局の情報は全てネットで見るができる。情報共有が重要であると思うので、ネットの使い方が分からない高齢者向けの講座を自治会で実施している。自治会の役員会議は今オンラインで実施している。花水地区のちいき情報局では、学校が行事情報をアップしているため、多くの子ども達が閲覧しているようだ。他の地域でも地域情報をちいき情報局に掲載してもらえたら。

○議長

港地区はどうか。

○委員

港地区では、対面を大切にしているところがある。感染症対策をしながら、短時間で集まって会議をしている。

○委員

PTAは担い手が不足しているという課題があると聞いている。

○委員

共働き世帯もあるので、形を変えながら、何とかやっていくことができている。

○委員

給食の時間、子ども達は前を向いて黙々と食べている。その時間を使って教室の大型ディスプレイを活用し、何かできないかを考え、豊田小学校で今週から図書ボランティアが毎週火曜日の給食の時間にタブレットを使って読み聞かせを始めた。今日、紙芝居を実施して、子ども達が喜んでくれた。

いろいろな制約はあるが、新しい社会教育の在り方の事例になるのではないかと思う。

○議長

ご意見ありがとうございました。

16ページの箇所を元に課題や今後の対応策等について、皆で考えていきたいと思う。

(4) 今後の会議予定の確認

第4回会議日程…令和3年7月27日(火)

4. その他

なし

以上